

介護男子スタディーズプロジェクト

｜ 書籍を発刊し「介護」について議論を巻き起こす ｜

介護の仕事に従事する人の8割が女性です。だからこそ、男性が快活にはたらいっている姿を発信することは社会的な議論を惹起し、社会の「介護」に対する概念や評価を変えるきっかけになると考えています。

〇〇男子という言葉に陳腐さや軽薄さを感じるならば、それはもはや近代社会のジェンダー規範に転換が起きていることを意味するのかも知れません。

この書籍は「リクルート本」や「業界解説本」ではありません。介護についてスタディーし、議論を巻き起こすことを目的としています。

｜ 写真と論考のハイブリット書籍 ｜

論考の執筆は、さまざまなジャンルから15名のオピニオンリーダーにお願いしています。

執筆者情報

阿部真大(社会学者)、安藤桃子(映画監督)、折元立身(現代美術家)、佐々木誠(映像ディレクター・映画監督)、平川克美(作家)、広井良典(千葉大学法政経学部 教授)、藤村龍至(建築家・ソーシャルアーキテクト)×家成俊勝(建築家)、布施英利(批評家)、細川亜衣(料理家)、堀田聡子(国際医療福祉大学大学院 教授)、六車由実(介護民俗学)、森永邦彦(ANREALAGEデザイナー)、山根純佳(実践女子大学人間社会学部 准教授)、吉藤健太郎(ロボットコミュニケーター)



みんなの介護学／広井良典(千葉大学 教授)

——介護をめぐる「光と影」ないし“理想と現実”という拮抗的な状況を超えて、それをポジティブな方向に発展させていく、今が大きな分水嶺ではないだろうか。



男性介護職の可能性／山根純佳(実践女子大学 准教授)

——近世には男性も家族の介護をしていたという記録があり、家を離れて仕事をする武士には「看病断(かんびょうことわり)」という現代の介護休業のような制度がありました。



「聞き書き」で介護はもっと面白い／六車由実（介護民俗学）

——人生すごろくなどの形にして、浮かび上がってきたその利用者さんの人生をみんなで遊びながら共有し、共感できれば—そんな介護現場だったら、利用者さんにとっても、そしてスタッフにとってもきっと心地がよい場所になるはずだ。



地方の若者と介護の仕事／阿部真大（社会学者）

——つまり、「介護男子」とは、ポストヤンキーの時代を生きる今どきの「地元志向」の男子の、ひとつの究極形なのである。

書籍概要

書名 『介護男子スタディーズ』

判型 B5変型／136頁

価格 2,160円 [事前予約は終了しました]

発行部数 12,000部 [残1,000部です]

Amazonで9月2日から販売を開始します。

制作チーム

企画 介護男子スタディーズプロジェクト

写真家 高木康行 <http://www.yasuyukitakagi.com/>

制作 株式会社アマナ

WEB <http://www.kaigodanshi.jp/>

利用シーン

- ▶ ノベルティーとしての活用
就職フェアでのブースを巡る「スタンプラリー」でノベルティーとして活用
- ▶ 研修会やイベントの開催
事務局の馬場、飯田と、各都道府県や近隣の「介護男子」が出張します。

介護男子スタディーズプロジェクトは、
全国の20の社会福祉法人が介護の仕事の理解を促すために共同で実施しているものです。

参画法人一覧

愛川舜寿会（神奈川県）、青森社会福祉振興団（青森県）、喜寿福祉会（神奈川県）、紀友会（和歌山県）、協同福祉会（奈良県）、こうほうえん（鳥取県）、光明会（千葉県）、相模福祉村（神奈川県）、梓友会（静岡県）、照敬会（熊本県）、生活クラブ（千葉県）、成光苑（大阪府）、青山里会（三重県）、紬会（茨城県）、同和園（京都府）、野の花会（鹿児島県）、福祉楽団（千葉県）、明照会（兵庫県）、六心会（滋賀県）、若竹大寿会（神奈川県）